

4. 聖書の言語

- 1. 「言葉」(言語)についての考察
 - 聖書は「言葉」に深く関わっている。
 - 言語間・文化間(聖書の言語、西欧キリスト教世界の言語、日本語)の障壁:(辞書の問題、翻訳の問題、世代間の差異)。
 - 比喩としての旧約テキスト(『基督教研究』第43巻 1980年)
 - 語用論、テキスト理論、(文化)記号論

5. 聖書テキストの性格

- 「テキスト」としての聖書。対話の「メディア」・「場」。通時的：伝承と解釈（付加・変更・削除）の歴史の「織物」。経験の・言語化・伝承化。
- 織り込まれた模様 = キーワード。
- 伝承史から正典解釈史へ。解釈者の共同体（意味の共有）。テキスト（対話の場）に働く意味作用としての「聖霊の内的証示」。
- 読む行為：（「意味」の生成の仕組み、Ko-textとKon-text）、
- Text als Du Duの重層性（われわれにとってのDu=編集者、伝承の担い手、賢者（族長、長老、預言者、祭司、王、書記、教師・・・）、彼らのDu=神との対話への参加。彼らを通して、われわれにDu=神として語られることを「聞く」。（聞け、イスラエル 申命記6, 4 - 5。聞く耳ある者は聞け（イエスのたとえの語り方）。思いめぐらす。「耳をすます」）。「問いと応え」（ラビ集団的討論、多様な解釈、コンテクスト依存性）。Bibliodrama。

6 . 聖書テキストの構造と機能

- (1) 構造: 「語り」(歴史・物語)の構造:
エティオロギーとパラディグマ。
通時と共時。
(通時 = 歴史的・批判的解釈 資料文書説、伝承史・様式史・編集史)、
(共時 = 文芸学的・構造主義的解釈 詩学的、物語的、深層心理学的解釈等)
- 構造に即した読み？
- (2) 機能: 聖書の言葉の機能:
 - 指示機能と共示機能。
 - 「隠喩」の発見と生成。(聖書の内部。聖書と読み手の間)。
 - キーワード連関。(キーワードを手がかりに共示(connotation)の意味の次元へ)
 - 予型論(高次元のUnity)
- **文献: 予型論的解釈(『聖書学方法論』1979年)**